

今週の為替相場見通し(2020年12月28日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		103.26 ~ 103.89	103.63	102.00 ~ 104.00
ユーロ	(ドル)		1.2130 ~ 1.2257	1.2197	1.2050 ~ 1.2350
(1ユーロ=)	(円)		125.92 ~ 126.62	126.38	125.00 ~ 128.00
英ポンド	(ドル)		1.3190 ~ 1.3620	1.3585	1.3300 ~ 1.3650
(1英ポンド=)	(円)	*	136.97 ~ 141.22	140.41	138.00 ~ 141.50
豪ドル	(ドル)		0.7463 ~ 0.7609	0.7599	0.7450 ~ 0.7650
(1豪ドル=)	(円)	*	77.49 ~ 78.85	78.73	77.90 ~ 79.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 尾身 友花

(1)今週の予想レンジ: 102.00 ～ 104.00 円

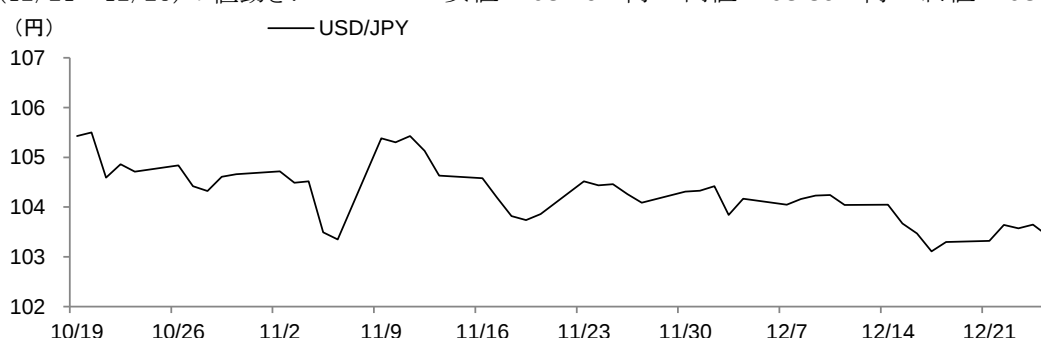
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は揉み合う展開。週初21日、103円台半ばでオープンしたドル/円は、日経平均株価の下落に伴い一時週安値となる103.26円をつけたが、海外時間では新型コロナウイルスの変異種拡大を受けてリスクオフのドル買いが進み、一時週高値の103.89円まで上昇。しかし流れは続かず、株価の反発や利益確定のドル売りもあいまって、ドル/円は103円台前半に押し戻された。22日は、欧州通貨に対するドルの買い戻しや、米11月コンファレンスボード消費者信頼感指数が予想を下回ったことを受けてリスクオフのドル買いが進み、ドル/円は、103円台後半まで上昇。翌23日は、米新規失業保険申請件数や米11月耐久財受注などの強弱入り混じる結果に、ドル/円は103円台半ばを挟んで小動きとなった。24日、英国とEUの通商協定が大筋合意と発表されると、ドル/円は103円台後半まで値を上げた。だが、その後はクリスマス休暇で薄商いの中、動意薄い地合いに。25日はクリスマスの為、休場となる国が多い中、ドル/円は103円半ばから後半にかけての小動きが継続した。

今週のドル/円はドル売りが一段と進む展開を予想している。先週は週前半にかけてドル買いが見られ、ドル売り基調が一服したかのように見えた。しかし、週後半に入り英国とEUの通商交渉が合意となり、ポンドとユーロが対ドルで上昇した。クリスマス期間で参加者が少ない中市場への影響は限定的だったが、クリスマス休暇明けの今週はこの通商合意が好感される形で、リスクオフのドル売りが一段と進行すると考えている。また、今週は28日(月)米12月ダラス連銀製造業活動指数、30日(水)米11月中古住宅販売仮契約件数の発表が予定されている。但し、指標結果の予想はまちまちで経済指標による相場への影響は限定的となるのではないかと。その他、今週は月曜日まで休場の国が多く、また金曜日が元旦となり全世界的にマーケットがお休みとなる為、実質的に取引が行われるのは木曜日までとなっており、参加者にばらつきがある週となる。特に日本は31日(木)から休日となるため、本邦参加者の少なくなる中、ボラタイルな動きになる可能性があることにも留意したい。

(3)先週までの相場の推移

先週(12/21～12/25)の値動き: 安値 103.26 円 高値 103.89 円 終値 103.63 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第一チーム 小野崎 順基

(1) 今週の予想レンジ: 1.2050 ~ 1.2350 125.00 ~ 128.00 円

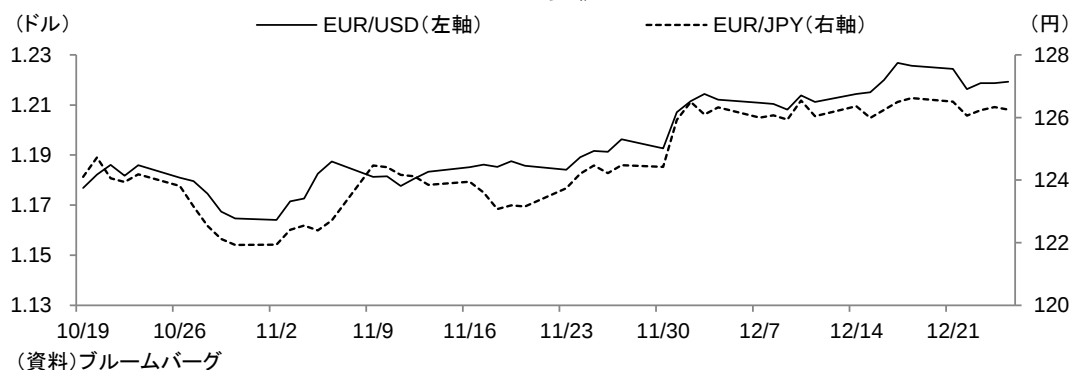
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ相場は揉み合う展開。週初21日、1.22台前半でオープンしたユーロ/ドルは、英国で新型コロナウイルスの変異種が発見され、ロックダウンへの懸念が台頭する中、欧州株安やポンド/ドル下落に圧迫され、一時週安値となる1.2130まで下落したが、リスクオフの流れが一巡すると、1.21台後半まで反発した。22日は、ユーロの押し目買いや米株価先物の下げ幅縮小を意識したドル売りに、一時週高値となる1.2257をつけたが、買い一巡後は特段材料のない中、1.21台後半までじりじりと下落した。23日は、英国とEUが通商交渉で合意に近づいているとの報道に1.22台前半まで急伸したが、合意内容を巡る不透明感も燃る中、1.21台後半まで反落した。24日、英国とEUが通商協定で大筋合意との報道に、ポンド/ドルの上昇にユーロ/ドルも1.22台前半まで連れ高になった。しかしクリスマス休暇で取引は閑散とする中、追加材料に乏しく上値の重い値動きとなった。25日についても、海外クリスマス休暇の中で動意の薄い展開。閑散相場のなか、波乱なく狭いレンジ内で推移、ユーロ/ドルは1.21台後半で越週した。

今週のユーロはウイルスの変異種関連のヘッドラインには注意が必要だが底堅い展開か。年末1週間前まで合意なき離脱への緊張感が高まっていたものの、先週の通商協定の大筋合意を受けての安堵感からポンドやユーロの上昇につながるだろう。また、米国では28日を期限としたつなぎ予算で運営をしているが上下両院で可決した9000億ドルの経済支援法案と2021年の本予算についてトランプ大統領が署名しないリスクも取りざたされておりドル売り主導のユーロ上昇も想定される。ただし、ウイルスの変異種の拡大は欧州を中心に深刻でありここ数ヶ月良好であった経済指標に対し今後の経済回復の遅れが意識される可能性があり、変異種関連のヘッドラインには注意したい。尚、31日(木)が英国のEU離脱後の移行期間終了日となっているが上述の通り、24日に英国とEUはFTAなど将来関係を巡る交渉で合意しており、年末までに双方が議会での承認や暫定適用の手続きを済ませれば、年明けからの経済活動の混乱は回避されるかたちとなる。報道によれば、英議会は30日に協定案批准に關しての採決が執り行われる。英議会でもFTAなしを回避したい思惑から、英国とEUの合意案は批准される見通しとなっている。一方、欧州議会は通商協定の是非を問う採決に十分な時間が取れないと判断しており、混乱を避けるために年初からの前提適用を受け入れる方針を示している。

(3) 先週までの相場の推移

先週(12/21~12/25)の値動き: (対ドル) 安値 1.2130 高値 1.2257 終値 1.2197
(対円) 安値 125.92 高値 126.62 終値 126.38



3. 英ポンド

欧州資金部 森田 大貴

(1) 今週の予想レンジ: 1.3300 ~ 1.3650 138.00 ~ 141.50 円

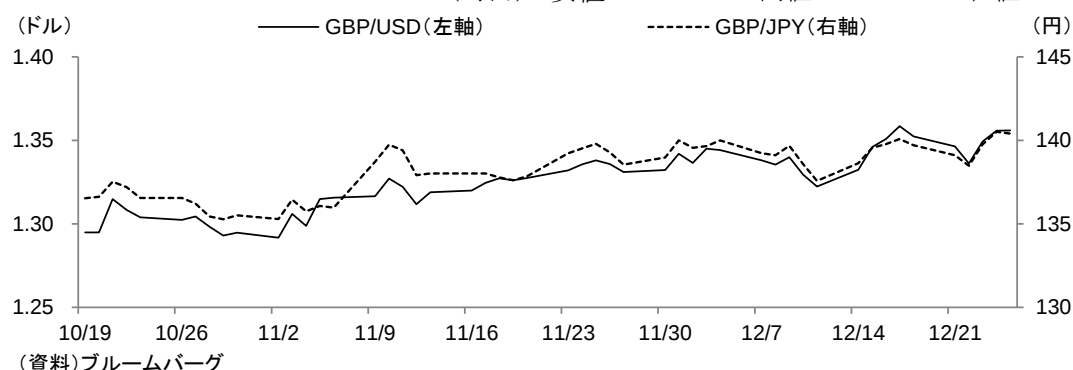
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、週初に大幅下落したもののすぐに下げ幅を縮小し、週後半にかけて上昇する展開。週末に発表された、新型コロナ変異種による感染拡大を受けてのロンドンを含む南東部のTier4引き上げ措置(事実上のロックダウン)、及び欧州各国による国境閉鎖を受け、週初21日、対ドルで1.34台後半、対円で138円台後半レベルでギャップダウンしてオープン。アジア時間からロンドン入りにかけ下げ幅を拡大し、対ドルで1.3190の週安値まで、前週末クローズから300pips超の下落。対円で137円割れ、対ユーロでも0.92越えまでGBP売りが進み、GBP全面安の展開。しかしロンドン午後に入ると、「米・独製ワクチンのEU内使用を勧告」のヘッドラインから徐々にリスクセンチメントが改善したことに加え、英国が漁業権について土壇場で譲歩する姿勢を見せGBP買戻しの動きとなり、週初の下げ幅をほぼ埋めるレベルまで買戻し。翌22日は、EU側から合意に否定的な報道が流れたことに加え、参加者が限定的な中で各通貨でドル買いフローが見られ1.33ちょうどレベルまで下落。一方で、合意は近いとの見方も根強く、徐々に買戻しの動きとなり、翌23日には1月1日以降の新たなEU英国間貿易協定に関するPROVISIONAL APPLICATIONの手続きをEU側が準備との報道をきっかけに、GBP買いが加速。その後も報道は錯綜し上下するも、合意見通しの報道を受け、24日ジョンソン首相の会見を前に対ドルで1.3620の週高値を示現。対ユーロでも0.90を割り込むと0.8954までGBP買いが進み、対円でも一時141円超えまで上昇。その後EU英国双方から合意の正式発表があり、EU離脱の移行期間終了間際でようやく決着。焦点となっていた漁業権については、EUによる年間漁獲高(金額ベース)を25%削減、移行期間5年半とし、当初の要求からは両者が歩み寄った格好。しかし、合意はこれまでの動きで既に織り込まれておりGBP買いのフォロースルーはなく、25日欧米各国休場を前に、対ドルでは1.35台半ば、対円では140円台半ばレベルで越週した。

今週の英ポンド相場は、上値の重い展開を予想。英国とEUの通商協議が妥結され、この後両議会で批准される必要はあるが、25日ブリュッセルでの会合では英国とEUが合意した通商協定を1月1日から暫定的に適用することをEU加盟国は全会一致で支持しており、今月末で合意がないままEU離脱移行期間が終了する恐れはなくなったと言える。一方、直前のブックメーカーのオッズ通り、為替マーケットでも妥結前に合意の可能性は既に織り込まれていたとみられ、実際英ポンドは対ドルでは前週の高値1.3625すら超えることができず、むしろセルザファクトの動きとなっている。先週は多くの欧米参加者がクリスマス休暇に入っており、また28日も英国休場であり、連休明け(英国にとっては4連休)の反応には注意を要する。しかしながら、マーケットの焦点は米経済対策の行方、及び新型コロナウイルス感染拡大の影響に移ろう。英国では26日のボクシングデーからスコットランドと北アイルランドでロックダウン、イングランドでも制限が強化されており、経済への影響が懸念されることに加え、欧州を中心に世界各国で英国と同様の変異種が確認されており、世界的に感染拡大が確認されている。斯かる状況下、さらなる英ポンド続伸をサポートする材料は乏しく、材料出尽くしから短期的には頭打ちの値動きとなろう。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(12/21~12/25)の値動き: (対ドル) 安値 1.3190 高値 1.3620 終値 1.3585
(対円) 安値 136.97 高値 141.22 終値 140.41



4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 川口 志保

(1) 今週の予想レンジ: 0.7450 ~ 0.7650 77.90 ~ 79.00 円

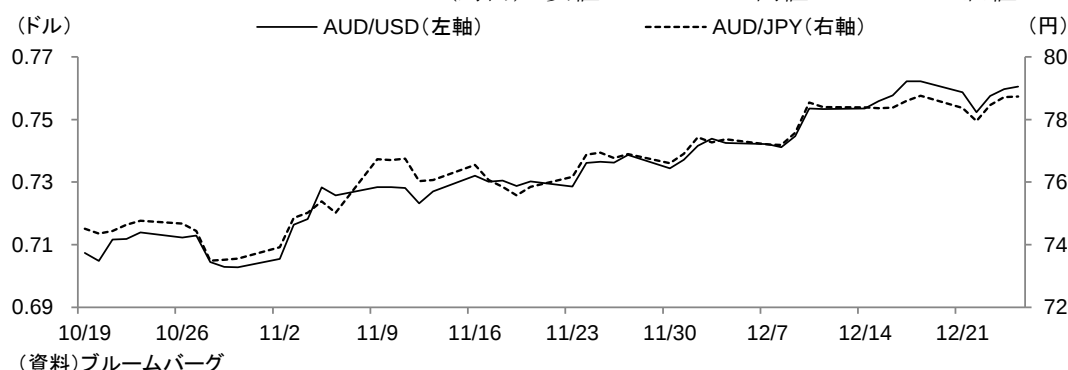
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドルは0.76台乗せから一旦0.7460近辺まで下げるも、週末は再び0.76台に乗せて引けた。週初21日は一日を通していい。英国での感染力の高い変異ウイルス関連の報道で週明けは0.76割れでギャップダウンして始まった。リスク回避ムードが重しとなり、ロンドン時間には株や原油価格の下落が加速。リスク警戒感からのドル買いと重なると0.7460近辺まで下落した。欧米でワクチン接種が始まったものの医療関係者や高齢者などに限定されており、全体的な感染拡大が未だに拡大している。また英国での変異種の出現を受け、仏や独が英国発の航空便受け入れ停止を発表した事で不確実性と移動制限が大きくリスク回避ムードに作用した。ドル買いが一巡すると米追加経済対策基本合意後の期待感を背景に米株が上昇し、欧州で「米製薬会社のコロナワクチンが承認された」との報道を受け再びリスクオン。豪ドルは0.76近辺まで戻した。22日は引き続き新型コロナ異変種を巡る懸念を背景としたリスクセンチメント後退が継続し、豪ドルはじり安。豪11月小売売上高は前月比+7%と市場予想を大きく上回るも、直近シドニー近郊で発生した新型コロナのクラスターへの懸念が重しとなり、豪ドルの反応は限定的となった。NY時間に発表された米12月コンファレンスボード消費者信頼感指数が予想外に低下し4カ月ぶり低水準となったことを受けてリスクオフの米ドル買いが強まると、豪ドルは更に値を切り下げ0.7530近辺まで下落した。23日は0.75台前半で始まり、序盤は買い戻しの動きから小高く推移するも、トランプ米大統領が米議会で可決した追加経済対策について部分修正を望む意向を示した事を受けて米株先物が急落すると、豪ドルも小幅下落。その後は株が戻すと豪ドルも0.7580近辺まで戻した。24日、クリスマスイブで薄商いではあったものの英・EU通商協定合意の報道を好感し、豪ドル売りは縮小。週末にかけては0.76丁度を挟んでの展開となった。

今週は特段ニュースがない限り値動きは0.75台後半から0.76台前半を中心としたレンジで限定的となるとみられる。28日(月)は英国や豪州を初めとする一部の国でボクシングデーの振替休日となり、市場参加者は少ないが同日、米国ではつなぎ予算の期限となっており、トランプ米大統領が一部修正を求めている追加経済対策に関して適切な対応がとられない場合、29日(火)から政府機関は一部閉鎖となる可能性がある。この場合、株や商品通貨からの投資資金が逃避先としてドルなどへ向かうとみられ、豪ドルの重しとなろう。いずれにせよ流動性が枯渇していく中での急激な動きには十分に注意したい。年明けは1月5日にジョージア州の上院決選投票の結果発表が予定されており、民主党2名、共和党2名で2議席を争うが民主党がこの2議席を獲得したとしても、既に他州で議席を獲得している保守的な民主党上院議員の中には民主党が提案する大型増税やグリーン政策に投票しない議員もあり、またフィリバスターもついて回る為、ブルーウェーブシナリオ再燃はないとみられ、ねじれ議会継続で安心感から株高へ繋がると予想する。この場合、豪ドルは更に上値をのびし、0.76台定着の可能性が高まる。また、足下で堅調な豪小売売上高や豪失業率低下でRBAによる早期追加緩和観測が後退している事も下値を支えるとみられる。6日発表予定のFOMC議事録で実質金利長期化が再度リマインドされればドル売りとなり、こちらも豪ドル支援材料となろう。8日には米12月雇用統計が発表されるが、雇用の拡大が鈍い場合はリスクオフのドル買いが強まるとみる。この場合、豪ドルの上値は抑えられるとみる。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(12/21~12/25)の値動き: (対ドル) 安値 0.7463 高値 0.7609 終値 0.7599
(対円) 安値 77.49 高値 78.85 終値 78.73



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。